

令和6年度 第2回刈谷市子ども・子育て会議 議事録要旨

1. 日時

令和6年10月23日（水）午後3時00分～4時30分

2. 場所

刈谷市社会教育センター401会議室

3. 出席者

会長及び委員17名（欠席3名）

事務局15名

4. 議題

刈谷市こども計画（案）について

- (1) 事務局から資料1（子ども・子育て支援事業計画にあたる前半部分「第1章、第2章前半、第5章」）、資料2-1について説明した。

（質疑）

- ・委員 2点お尋ねしたい。まず1点は、1ページのところで3号認定の確保の内容、量の見込みという表があるが、確保の内容を見ると、例えば0歳児でいうと令和7年度201人、令和11年度401人。それから1歳は（令和7年度）615人、（令和11年度）769人と、非常に確保をたくさんしていかななくてはならない計画となっている。この数字を刈谷市の配置基準で保育士がどれぐらい必要なのかというところで考えてみると、認可外を含めるとこの5年間で120人くらい。認可保育園だけでも40人くらい単純に保育士を増やさないといけないという状況になるだろうなと考えた。ということ、やはり今いる人が辞めないような施策とか、潜在保育士を整理して保育士になってもらう。それから、先の長い話になってしまうが、例えば小中学生ぐらいで保育士になりたい、幼稚園の先生になりたいという子はたくさんいる。そ

ういう子たちが将来の夢を持って刈谷で保育士になってくれるような施策を今後考えていかないと、なかなか単純に増やすというのは難しいと思う。刈谷市の中で取り合いになってしまっても意味がない話で、新たに増やすということを考えた施策にも力を入れていかないといけないと思い、意見させていただく。

もう1つは、93ページで、(1) 質の高い教育・保育の提供に公立幼稚園の話があるが、単純に考えて保育園の方の幼児教育が軸になっているという部分を記述しても良いのかなと。刈谷の保育園は多分幼稚園と同じような保育内容をしているし、先生に関しても幼稚園の先生と保育の先生が行ったり来たりしてやってみえる。民間保育園に関しては英語だとか海外だとか、そういう特色を持った保育をやってみえる民間の保育園もあるので、やはり保育園における幼児教育。幼児教育というとはどうしても文科省時代の幼稚園のイメージがあるが、そこを保育園での幼児教育という記述があっても良かったかなというのは改めて思ったので、意見として述べさせていただく。

- ・事務局 保育士の確保は非常に重要で、今日の新聞報道にもあるとおり、いろいろな制度によって充実させるための取組は進んでいながらも、人材がなかなか集まらない。人材が集まらない理由は何かと言われた時に、処遇のことや働く環境がいろいろと課題になるということが論じられている。よく言われるように、保育士として働いている方よりも潜在保育士の数の方が多いという事情を踏まえて、その方たちにはかに保育現場の方に就いてもらえるか。「刈谷市がこういう制度を作れば戻ってくる」ということもあるかもしれないが、やはり社会全体の中で保育士の地位向上を訴える必要があると思っている。これは市としてできる施策も含めて、国・県等への働きかけも含めてやっていきたいと思っている。また、若い頃から保育士への興味を持つことに関しては、刈谷市の取組として、中学校の段階で例えば保育の体験学習、交流学习を行っている。それを機会に私は保育士になろうと決めたと

というような声も聞かれる。こういう機会をいろいろな形で充実させ、保育士の確保の数が増やせるようにしていきたい。

それから、93 ページの質の高い教育・保育の提供について。保育運営における幼児教育に関しては、幼稚園と保育園で昔は差があったが、今は基本的に同じようにやっている。計画案に子ども園に移行した旨を記載しているため、幼稚園が中心という印象が強くなっていると思うが、後段は保育園、幼稚園両方に関わってくる事柄であるため、文章の表現については改めて検討したいと思う。

- ・ 委員 いまの意見にちょっと付け足し。今私は子育て中で、中学生2人、幼稚園1人の3人のこどもがいる中で、仕事は保育士をしている。職場で園児を預かる際に、親と離れるこどもが泣いている姿を見ると、「あ、自分も泣きながら置いてきたな」と思う。子育てをしているお母さんたちが、保育士にもう1回復帰することは、正規でずっと続けている人はまだ良いが、一度離脱した人がもう一度復帰するというのは、環境をととても良くしてもらえないと難しいと感じる。お休みするという連絡が入ってきた時にどうするかという点は、すごく保育士の難しいところだなと。あと、「若い世代の人たちが保育士になるためにどうすべきか」という点について、この前、中3の子が、ちょうど幼稚園の実習を行ってきたが、「幼稚園の先生になりたい、保育士になりたい」と言うこどもはすごく多いものの、実際に実習をしたら「遊ぶだけではないんだ」という声がすごく多かったと、すごく楽しみにして行ったのに疲れて帰ってきたとのことだった。「保育士は遊ぶだけではないんだ」という声は男の子たちからも聞かれたが、一方で、先生たちの頑張っている姿を見て、「やっぱり保育士になりたいな、でも難しいのかな」「ピアノの練習をしないといけないのかな」という良い課題を持って実習を終えてきた。保育士の大学、短大に入ってからの実習は当たり前だが、それより以前の中学校時代に実習をする経験も、すごく大事なのかなと感じた。

- ・事務局 前半の部分について確認したい。ずっと保育士として働いている方が一旦子育てのためにお休みになって戻ってくる時は良いけれど、辞められた後に潜在保育士として、例えば別の職業に就いたりした方がまた戻ってくるのに少しハードルがあるというのは、具体的にどういう意図であるか。

- ・委員 育休などをもらっての復帰は大丈夫だが、1回離脱した人が、1人目を産んで2人目を産んで3人目となると、10年ぐらい空いてしまう。そうすると、園の環境も違い、子育て環境も違うとなり、戻りにくいというのが皆さん感じるところだと思う。若い先生たちの今の過ごし方、保育の環境が変わってきているので、改めて勉強していくのが難しい。免許は持っているけれど公立や私立で働くのではなく、認可外で少し働こうかななどの話をよく聞く。

- ・事務局 潜在保育士に戻ってきってもらうためには、普通の保育士が復職するよりも難しいことがよく分かった。潜在保育士の気持ちになり、職場もいきなりの復職を求めるのではなく、少しステップを踏むような形の戻り方が良いように思う。来年度から潜在保育士を対象に、1年間体験的に戻ってもらって、その方を雇った場合に園への補助金が出るような制度が整理され始めている。この辺りは、国や市と教育機関が協力しながら、潜在保育士が戻りやすい環境について検証しながら支援していきたいと思っている。

- ・委員 92ページの⑱産後ケア事業について。産後も安心して子育てができる支援体制の確保を行う事業ということで、とても必要でそのような施策を行ってほしいと思っている。この算出根拠を教えてください。

- ・事務局 国のガイドラインに基づき算出している。量の見込みの算出式とし

て、これまでの実績などから産婦数を1年 184名、平均利用日数を3.2日として、両者を掛けて589名と見込んでいる。産後ケアは非常に利用が増えており、対応する事業所等も増やしてきている。現在は、利用者を待たせることなく希望に応じた数を確保できているため、今後も継続して取り組んでいきたい。

- ・ 委員 4ページで「第2期計画」という言葉がいきなり出てきて、最初第2期計画とはどういう意味なのだろうと思った。「第2期刈谷市子ども・子育て支援事業計画」と書いても良いのではないか。もしくは、3ページで「以下、「第2期計画」という」のような補足をしても良いかと思う。

また、93ページについて、ちょうど私のこどもが年長で、来年小学校に上がるころだが、私自身が幼稚園児だった頃と比べて、すごく自由な保育に変わってきていると、自主性を重んじる保育に変わってきていると感じている。私の時は幼稚園ではなく幼稚園だったので、学校に近いような幼稚園での生活だったのではないかなと記憶している。聞いた話では、幼稚園・保育園はそういう自由な保育に変わってきているが、小学校に上がった時に、急に授業を聞くという形になって、そのギャップでちょっと学校に行きたくなくなることがあると。その辺りが、(3)の関係機関の連携による切れ目のない支援の実現として含めて書かれているのかなとは思いますが、幼稚園・保育園の考え方から小学校に上がった時に、小学校の先生たちとも連携してスムーズに小学校に上がっていけるような形になってくれるのが良いと思う。

- ・ 事務局 1つ目でご指摘いただいた「第2期計画」という言葉については、計画全体を見渡して、一度検討させてもらいたい。

2つ目の小学校との連携について、まさにギャップというか、こどもにとっては通う場所がステップアップしていく中で、大きな変化は

それなりにあると思う。それを受け止める先生または保育教諭が、そのことを認識しておくというのが非常に重要なことだと思う。幼稚園・保育園の保育教諭が、卒園した園児が小学校でどう過ごしているのか確認したり、逆に、小学校の先生が幼稚園・保育園の様子を見に来たり。いろんな機会を設けて、どういう保育またはどういう教育をされているのかを相互に把握する、そういうことを今後増やしていくべきということが議論されている。繋いでいくということの大切さを関係機関が理解し合えるような環境を作っていきたいと思っている。

(2) 事務局から資料1(子ども・子育て支援事業計画にあたる後半部分「第2章後半～残り」)、資料2-2について説明した。

(質疑)

・委員 私は小学校のPTAをやっており、そこでいろいろ意見を吸い上げてきた。医療費の部分で高校生の医療費の親の負担について、高校生の入院にかかる費用については無償化されている認識があるが、今後についてはどういうお考えなのかを教えてほしい。

・事務局 こどもの医療費への支援に関しては、計画上は具体の施策として記載している部分ではなく、位置付けについては75頁、3-4の経済的支援の一内容という整理である。経済的な負担感のために子育て当事者のウェルビーイングが低下することのないようにというところで読み込んでいくものと考えている

なお、高校生の医療費について、入院は既に無償としているが、通院についても令和7年4月1日から無償とすることに決まった。これにより、令和7年度からは入院も通院も高校生の医療費はかからないようになる。

・委員 数字に関して44ページの⑤の本文中、小学5年生で「満足してい

ない」「あまり満足していない」の割合が 10.2%と記載されているが、グラフの数値を足すと 10.1%が正しいのではないか。

・事務局 表記方法については検討するが、指摘の内容は、グラフの数値を表面上で突き合わせるか、実際の数値を四捨五入するかというところの差になっている。その辺りはまた全体の統一感を踏まえて、字句の整理という形で事務局の方で見直しの検討をさせてもらいたい。

・委員 63 ページから、子ども・若者の権利を尊重していこうというのがあるが、今までそういう視点がなかったので、今後そういう視点で考えていくことは非常によくわかるし、当然これは書かれるべきだと思う。一方で、子どもが他者の権利を尊重する義務を持っているという部分がありあまり計画で述べられていないと感じる。大人が子どもの権利を尊重することばかりが子ども計画には書かれていて、子どもにも他者の権利を尊重するということを教えるというか、見つけさせる。子どもにもそういう義務がある。それは子ども同士でもそうであるし、子どもは大人に対してもお互い 1 人の人間として尊重し合うのであれば、それぞれが尊重し合うという記述が、今回の子ども計画、子ども大綱でもそうであるが、片一方の記述ばかりが非常に大々的に書かれていると感じた。

もう 1 点、質問したい。57 ページで刈谷市の課題というところが始まって第 2 章が終わるが、いま刈谷市の課題に対して刈谷市の計画を作っている段階なので、刈谷の子ども計画の特徴というか特色、どういった面を刈谷として今後やっていこうと考えているのかを教えてください。

・事務局 まず、子どもが子どもを尊重するという点について、たしかに、今回この計画の中にそういった視点はほとんど含まれていないというのはその通りと思う。ただ、ちょっとしたところではあるが、こど

もの人権教育については 69 頁の 2 - 2 では少し触れている。加えて、計画ということではないが、今回意見聴取を行うにあたり、職員が講師として中学校に出向いた際、人権条約等について少し説明した。その中で、差別についても言及しており、差別しないというのは、大人が子どもを差別しないということだけではなくて、子どもが子どもを差別しないということも当然含まれると伝えている。人権条約というのは大人だけに適用されるものではなくて、子どもたちにも適用されるから、君たちもちゃんとその辺りのところは心していかないといけないよというように。しかしながら、本計画においてまずは子どもの権利を尊重することから重点的に取り組みたいと考えている。

2 点目の計画の特徴については、子ども・若者を権利の主体として尊重していこうという点、基本目標 1 に該当する施策の展開、この部分が一番特徴的であると思っている。他市と比較しても、学校に出向いて子どもたちの意見を聴取する取組まで実施している市はなかなかないと認識している。さらに、この取組は、今回は子ども計画を策定するために行ったが、今後も刈谷市の姿勢として子ども関連の施策を実行していく時には、同様に学校に出向いて子どもたちの意見を聞いていくこととしている。このことは、1 - 1 の授業形式の意見聴取とワークショップの活用のところに記載している。

- ・委員 1 点目のことに関してはよくわかった。子どもの権利は尊重するけども、やはりそれに伴って義務もあるというのは大切であるし、子ども同士でもそうであり、子どもが大人に対する権利を尊重するというのは、子どもは将来的に大人になるわけで、そういう子が育っていけば将来的にもいろんな人を尊重する人になるのかなと思うので、施策の中で考えていってほしい。

2 点目の刈谷市の特徴ということで、57 頁にも一番初めのところで「少子化と子育て世代の転出超過」が刈谷市の課題になっていると書いてあるが、これは多分ジレンマみたいなことで、子育て支援施策

をはじめ、いろいろな施策を充実させると、刈谷市のニーズが高まり、刈谷市に住みたい人が増え、その結果、刈谷の土地代やマンションの価格が非常に高騰していく。数年前まではチラシでみる情報も、だいたい4,000万を切った分譲住宅、マンションだったのが、最近では4,000万円後半～5,000万円という分譲住宅、マンションが主になってきて、なかなか若い世代の方が住めない、定住できない状況になっていると感じる。子育て支援の関係だけではなくて、例えば、東郷町や大府市などの大きな宅地造成のような、そういう市の総合的な施策がないと子育て世代の転出超過は解決できない。この場で議論する内容ではないが、子育て支援の関係だけではなくて、もっと広くいろんな施策を展開する必要があると感じた。

- ・委員 今回の計画の作成にあたって、こどもからの意見聴取がポイントであり、今後も意見聴取を続けていくとのことであったが、今回、実施した意見聴取にて、今まで見えなかった課題や新たな論点などがあれば教えてほしい。

また、障がいのあるこどもや、外国にルーツのあるこどもなど、様々な背景を持ったこどもたちから意見聴取ができているのかについても教えてほしい。

- ・事務局 従来のアンケートでの意見聴取との比較で、今回初めて対面で学校に出向いて意見聴取をしてみて良かったと思う点としては、やはり学校に出向いて意見聴取をしているので、双方向というところである。一方的にこどもからの意見を拾うではなくて、こどもたち同士で意見が重なってくるところ。誰かが手を挙げてしゃべればそこに付け足しの意見があったり、こどもたちの意見に対して市役所としての見解を述べる機会があったり、そこで建設的に議論が進んでいくので、その点はまず1つ良かったことだと思う。

また、例えば子どもたちにどういう居場所が皆さんにとって必要な

のかという話を聞いた時に、サウナや仮眠室であったり、そういう意見が出てくるのは全く想定していなくて、こどもたちも大人と同じように疲れているのかなど。癒しの空間が必要だということを改めて気付かせてもらった。

あとは意見の中身ではないが、授業が終わった後に「すみません、今日はありがとうございました」と言ってくれたこどもがいた。意見を言うこと自体にすごく喜びを感じているなという、そういったことに気付けたのも良かったことだと思う。

次に、障がいのある子どもや外国にルーツのあるこどもの意見聴取については、今回、普通クラスで意見聴取を行ったが、その中にも外国にルーツのあるこども、また、おそらくこの子は障がいがあるだろうと推測されるこどももいた。そういうこどもたちも、クラスメイトの協力を得ながら上手に自分の意見が言えていたと思っている。普通クラスで授業を行っているので、今後は特別支援学校でも意見聴取の必要性があるとも思うが、その辺りは今後の課題として教育委員会と調整しながら枠を広げるなりしてできればと思っている。

- ・ 委員 障害とか外国にルーツがある子に関しては多分想像しているよりも様々な背景があり、それでいて意見を表明しづらい環境に置かれているので、そういったところからまずキャッチするというのは大事だと思う。

もう1つ、今回はサウナや仮眠室などの意見が出たということで、新たなところが見えてきたと思うが、今後続けていく中では、いわゆる大人のフレーム、大人の考えに乗せられるような形で子どもの意見がただの補強になってしまうことも。そうならないよう、子どもの意見を尊重していければ良いと思う。

- ・ 会長 すごく大事な指摘で、それとともに課題をいただいたと思う。こどもの声を聞くというのはすごく難しいことで、そのための方法につい

てもさらに詰めていく必要があると思った。

- ・委員 65頁の将来像の形成支援について。今の世の中、こどもたちは「参加型」ではなく「参画型」に移行していると思う。何か行事をやるから来てくださるのではなく、自分たちが自ら考えて行動してそれによって世界が広がって、そしてそこで気付きが生まれるというのはとても大事。もちろん他にも自ら選択、決定することもいろいろあるので、ぜひ支援を強化してほしい。アンケート結果資料の中でヤングケアラーの可能性のある割合が、小学生で18.8%。すごいなと思ってちょっとびっくりした。これは多分コロナでお母さんの皆さんちょっとお手伝いをしているという子も入っての数字かもしれませんが、本当にびっくり。こんなにたくさんいるとは思わなかった。意外と言わない子もいるし、私の周りでもそういうのを聞いたことがないので、もし本当にヤングケアラーで困っている子がいるのであれば、ぜひしっかり支援してほしい。

- ・事務局 「参画型」についてはお話された通りで、そういったことに取り組んでいきたいと考えている。

ヤングケアラーの捉え方については、補足的な内容になるが、アンケートで「家族のお手伝いをしているかどうか」、「家族のお手伝いをしていることで、自分がやりたいことを諦めているかどうか」、という聞き方をした。ヤングケアラーの定義としては、「過度な」負担がかかってしまっているかどうかは1つポイントになっている。小学生のこどもたちが答えてくれた動機までにはうかがい知ることができないため、家族のお手伝いをしているというポジティブな意味で、家族の誰かのお世話をしていると答えた可能性がなきにしもあらずと思う。ただ、その中で過度な負担として自分のやりたいことを諦めてしまっている子も実際いますので、これに関してはかなり深刻な受け止めになると思っている。このアンケート調査が、今後はヤングケアラ

一の実態調査ということで、国からも来年度以降、具体的に調査するようという指示は出ているので、取り組んでいかななくてはいけない。ヤングケアラーをまず知った上で、どういった配慮が必要かをわかってもらった上での調査ということにはなるけれども、今後取り組んでいきたいと考えている。

- ・委員 「お手伝い」ではなく「お世話」をしている人と書いてあったので、結果を見てびっくりした。
- ・事務局 受け手の子がこの設問だと難しいかなと。一般的には「ケア」というカタカナで聞いてしまうこともあるが、なかなかそれでも伝わりにくいので、その辺りは調査項目の設定の仕方から工夫が必要かと思う。来年度以降熟考させていただこうとは思っている。
- ・会長 ヤングケアラーについて、どのように扱いを考えるかは非常に難しいテーマである。そもそも「ケア」を特定の人が一方向的に「過度に」担う状態というのは、女性のケアについて作られてきた状態だけれども、その辺りはあまり追わないで、ヤングケアラー問題だけ突出して扱うというのはいかがかなということは今議論されているところ。今後はその辺りも含めていけると良いかなと思う。
- ・委員 私たちは、こども・若者の様々な困難を抱えたご家庭、保護者の方たちの相談を受けている。いろいろな課題があり、刈谷市の様々な計画を立てられた中で、学齢期でもなく社会的に孤立した方たちの相談が多いため、ある意味ほころびの部分があるところへ反映されてきていると思っている。今回のアンケート調査も、ご家庭の方、また当事者の方に調査を行っているが、やはり本当に悩んでいる方たちは自分たちが声を上げるパワーが出てこない。これからより良い地域社会をつくっていくためには、声を上げられない人たちの声をどう

やってすくっていったら良いのかを考えていかななくてはならないと現場にいて感じている。これからの課題にはなってくるとは思うが、今後の一つの目標として、どのように取り組んでいったらよいか検討してほしい。

・委員 私もアンケートを見て結構ショックな数字だと思った。44 ページの「自分のことが好きか」の設問で、「好きではない」という人数が、思春期の中学2年生であればともかく、小学5年生でも結構パーセントが大きい数字になっている。そこから抽出した課題として「自己肯定感の醸成」があると思うが、実際、市としてできることは何があるのだろうか。いま対策として考えられているものは、4章の施策の展開のところで、ヤングケアラー、女性支援やこころの健康づくりというところかと思うが、他にも何か考えていることがあれば教えてほしい。

・事務局 ご指摘の通り、特にヤングケアラーについては、45 ページにおいて「お世話をしていることでできていないことの有無別」で「自分には自分らしさがあると思うか」というクロス集計を載せている。「自分のことが好きか」に関しても、掲載はしていないのですが、集計としては同様の結果が出ている。実際に、「お世話をしていることでできていないことがある」と答えたこどもについては、「自分のことを好き」という割合が明らかに低く出ていて、大きな阻害要因というか、自分のことを好きになれない一つの要因になっていることが数値として見てとれた。その辺りは積極的に市として改善を図っていく必要があると思っている。

「自己肯定感の醸成」という点では、こどもたちが意見を言って、その意見が採用されたり、そもそも意見を言うこと自体に一つの達成感があったりするというところから、まずこどもたちが意見を発表する場をたくさん作るということが大事だと思っている。今回、そこが

力を入れていきたい部分でもあるので、それによってどれほど数値が上がってくるかは未知数ではあるが、そういった意見をたくさん聴取するというチャレンジはしていきたいと考えている。

- ・委員 おそらく子どもに対しては、そういうところのケアでよいと思うが、親御さんの意識改革というのともあわせて検討してほしい。こどもの意見を受け入れるとか意見を言いやすいとか、先ほどの意見聴取にも繋がると思うが、自分や周りの人達にこどもの自己肯定感を意識して子育てしているか尋ねてみても、自分で調べてそういうことを意識してやっている人でなければなかなか難しいように思う。こどもの自己肯定感を意識した子育てについて、発信をできる場があればと思うので、追加の意見としてお伝えしたい。
- ・会長 たくさんの意見を出してもらったが、ここで改めて若者委員に意見や感想を言ってもらおうと思うがいかがか。若い人たちの権利が尊重されるというような計画なので、率直に思ったことなど言っていただけるとありがたい。
- ・委員 自分が思いつかなかったこと、ヤングケアラーなどあまり普段の日常で聞かないようなところにも施策を考えてくれているのはすごくありがたいなと思った。
- ・委員 大学でいろいろな授業を取ってきて学んできたつもりだが、現場で働いている方々はやはり説得力がすごく違うなと感じた。ここで学んだことを就職後も業務に活かしていきたいと思った。
- ・委員 会議の中で、こども・若者の意見を取り入れるということがすごく重視されていることを感じた。私自身こういった会議に参加する経験が全くなく初めてだったので、こういった若者の意見を取り入れる場

があるというのはすごくありがたいことだと強く感じた。

- ・会長 皆さん本当に貴重なご意見ありがとうございました。あとは細かいところを詰めて完成ということになる。数字のことも含めて事務局と会長で調整して調べるということになるが、その点ご了承いただきたい。